

## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	開発途上国の水資源開発：日本のダム開発の経験から考える
主催者	日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」・ 「水のグローバルガバナンス」研究プロジェクト
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	17時30分～19時30分
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	大分県ニューライフプラザ（大分県立生涯教育センター）「研修室」
参加人数	15名

### 開催概要（900字以内）

今回のオープンイベントは、開発途上国における水資源開発、とりわけ引き続きその役割が大きいダム開発について、現在の開発途上国が日本の経験からどのようなことを学ぶのかということを考えるために開催された。

セッションの議長の挨拶に引き続き、日本におけるダム開発と水没移転の経験、その帰結についての研究報告がなされた。続いて開発途上国（スリランカ、インドネシア）からの研究者が、それぞれダム建設に伴い立ち退きを余儀なくされた人々に関する研究発表（スリランカ・コトマレダム、インドネシア・コタパンジャンダム）を行い、現在の開発途上国における水資源開発が抱える問題点を指摘した。

会場には、学生や水資源開発にかかわる実務者が聴衆として参加し、これらの報告に対する質疑応答がなされた。

それらを受けて議論の総括では、日本におけるダム開発の歴史とそこで経験された問題が、現在の開発途上国での水資源開発に有益な示唆を持つこと、更には途上国と先進国の研究者が共同で更に様々な事例研究を積み重ね、発信していくことの重要性が認識された。



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

### 日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

今後も同様のイベント—研究者にとっては研究成果の発信の場、一般の聴衆にとっては普段は触れることの少ない諸外国の事例も含めた研究の世界に触れる場として—をぜひ開催し、人々の問題関心を高める努力をお願いしたい。

### その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

日曜日の夕刻でもあり必ずしも聴衆は多くなかったものの、熱心な参加者を得て途上国の研究者も交えて有意義な機会を持つことができたと考える。水資源開発をめぐる問題については、引き続き、途上国をはじめとする他国の研究者との共同研究をすすめ、機会をとらえて発信に努めたいと考えている。なお、同様の研究成果の一部については、一般の人に向けた書籍（「水をめぐるガバナンス—日本、アジア、中東、ヨーロッパの現場から」蔵治光一郎編 東信堂）が先日発行されたところである。

